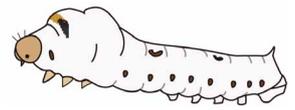


かい「こ」育て日記 ③



第3回は、5齢幼虫のようすと繭^{まゆ}づくりです。すっかり大きくなったカイコは、朝から晩まで休むことなく餌を食べ続けます。そして、繭を作る準備ができると、体が少し縮んで黄色っぽくなり、繭を作る場所を探して動き始めます。

6/13 (土) 🍀

カイコが繭を作る場所（まぶし）を準備します。カイコが好きな場所で繭を作れるよう、カイコの2倍の数のまぶしを用意するといいますが、大変なので少なめにし、足りなくなったら追加することにします。まぶしは厚紙を格子にしたものと、トイレト紙の芯、観察用にプラスチックの筒を丸めたものの3種類を準備しました。10匹には繭うちわを作ってもらいます。カイコが大きくなってきたので、これまで無関心を決め込んでいた飼いネコもよってくるようになりました。養蚕

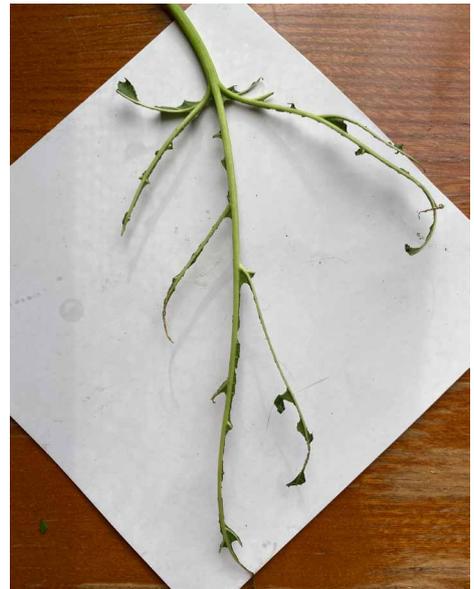


カイコが気になる猫



桑の葉を食べる5齢幼虫 クリックで再生します。(タイムラプス)

にとってネコは、ネズミの害からカイコを守る役目を持ち、守り神として信仰しんこうもされていましたが、このままではカイコたちの身が危険なので出入り禁止にします。



カイコが食べた桑の葉

6/14 (月) ☘

人工飼料が無くなったので、桑の葉を与えました。葉っぱをちぎって置いた途端、なんだなんだとカイコが集まってきました。30分後には残った人工飼料には見向きもせず、全部のカイコが桑の葉をムシャムシャと食べていました。食べやすい端はしのほうからかじりとっていき、葉脈など固いところまでいくと戻もどってまた手前から食べています。しかし、中には真ん中から好きなように食べ進んでいくカイコや、少しだけかじって別の場所に移動してまた食べ始めるカイコもいました。カイコが桑の葉を食べる音は雨の音のようだとされていて、「蚕時雨こしぐれ」という言葉もあるほどです。家にいるカイコは数が少ないので雨というほどではありませんが、シャクシャクパリパリと音が聞こえます。一晩経つと、葉脈を残しきれいに食べつくされていました。一日で数十枚の桑の葉を食べつくしてしまったので、もう取りにいかなくてはなりません。



桑の葉を食べる音 (クリックで再生します。)

※イヤフォン推奨です。

急に桑をあげたのが原

因かはわかりませんが、気づくと1頭のお尻がはみ出して（脱肛）^{だっこう} いました。仕方ないのでそのままにします。

6/15（月）☀️ 繭づくり^{まゆ}

夕方、1頭のカイコがそわそわとし始め、ダンボールに登って糸を吐き始めました。ついに繭作りです。繭を作る準備ができたカイコを養蚕用語で「熟蚕」^{じゅくさん}といい、この時期のカイコは少し黄色みがかって小さくなります。熟蚕をまぶしに入れて繭を作らせることを「上簇」^{じょうそく}といいます。数が少ないため、繭を作りそうなカイコを1頭ずつまぶしに入れていきます。これをしないとカイコたちがそれぞれ好きな場所で繭を作ってしまう大変なことになってしまうのです。まぶしに入れたカイコはしばらくうろうろしていましたが、やがて頭を左右にふりながら糸を吐いて足場を作り始めました。

6/16（火）☀️

朝様子を見ると、うっすらと繭の形が出来上がっていました。



繭を作り始めたカイコ



足場までできたところ



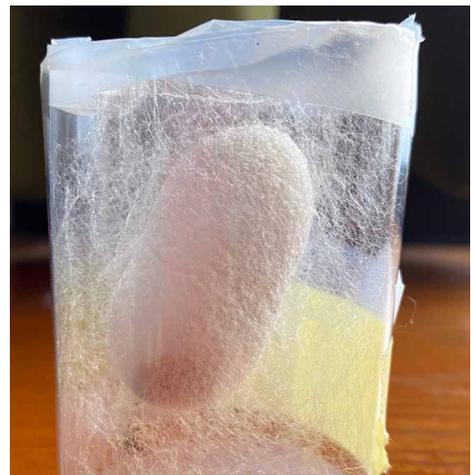
足場を作るようす。糞で繭を汚さないように作っています。クリックで再生します。（タイムラプス）

まだ繭の中で一生懸命作業をしているのが透けて見えます。カイコは縮んで小さくなり、色も黄色っぽくなっています。およそ半日で足場を作り、もう半日で繭の中を埋めていきます。夕方にはすっかり見えなくなりましたが、まだ中では作業を続けています。繭は1本の糸でできており、長いものでは1500mにもなるそうです。



繭を作るようす クリックで再生します。(タイムラプス)

残りのカイコも桑を食べるのをやめ、ダンボールに登り始めたのでどんどんまぶしに入れていきます。枠の中から好きな場所を自分で選び繭を作っていきます。



できあがった繭

6/17 (水) ☘

この日は2匹死んでしまいました。病気かもしれないのですぐに取り除きます。

^{だっこう}脱肛したカイコは、やはり桑を食べなくなり瘦せてフニャフニャになってきました。糞もちゃんと出ないようです。そのうちに力尽きてしまいました。これでカイコは44匹です。